

土砂防だより

NO.
127
1999.8.1



川奈小浦台急傾斜地 (伊東市)



急傾斜地法施行30周年 土砂災害防止月間

特集 急傾斜地法施行30周年…………… 2~3

土砂災害防止月間…………… 4~7

全国治水砂防協会通常総会…………… 8
急傾斜地法施行30周年記念講演会の開催

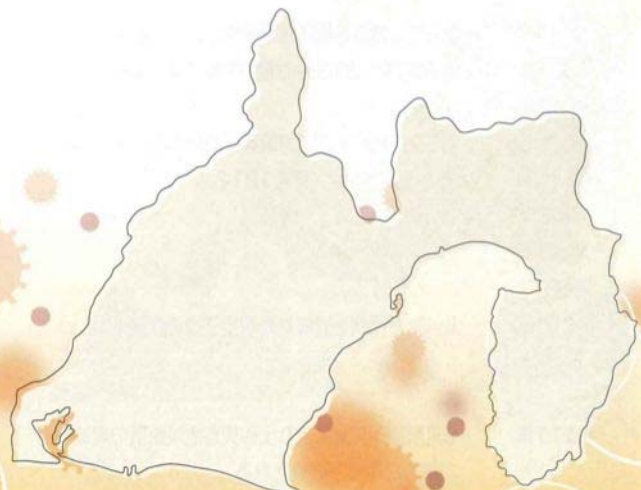
静岡県支部通常総会の開催

災害弱者関連施設への土砂災害危険箇所の周知…………… 9

わがまちの砂防…………… 10

富士砂防工事事務所からのお知らせ

砂防協会関係の主な行事



全国治水砂防協会静岡県支部

特集

急傾斜地法施行30周年

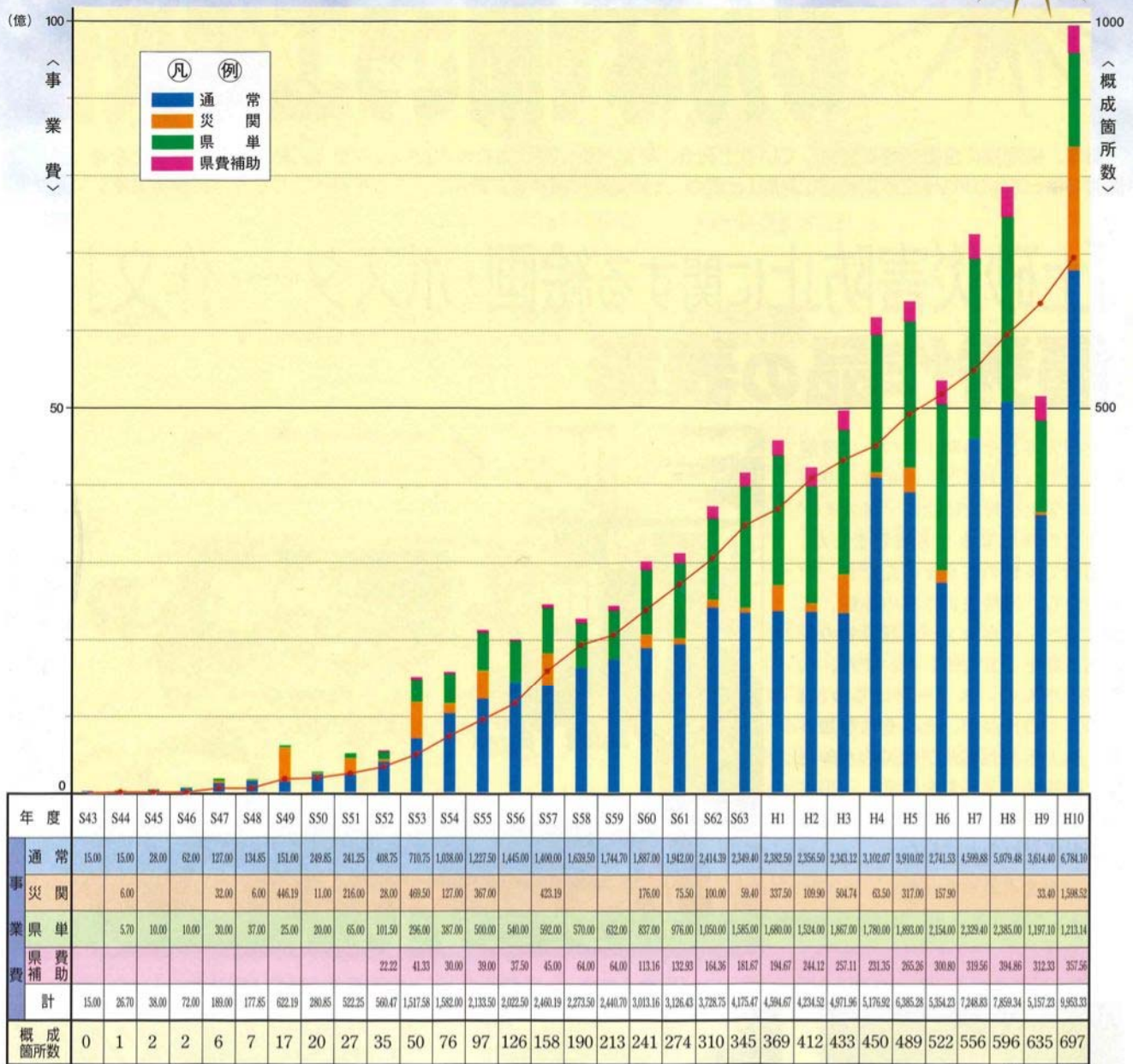
急傾斜地法（急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律）は昭和42年7・8月の西日本豪雨での「がけ崩れ災害」の教訓から昭和44年6月27日に成立し、8月1日から施行されましたので、今年で30周年を迎えました。これまでの30年で855箇所を指定し、812箇所に工事着工、697箇所が概成しておりますことは、ひとえに急傾斜事業を理解し必要としている皆様や、行政の側にある多くの先輩諸兄のお陰であります。

今は予算等のきびしい時代ではありますが、どうぞこれからも今まで同様よろしくお願い致します。

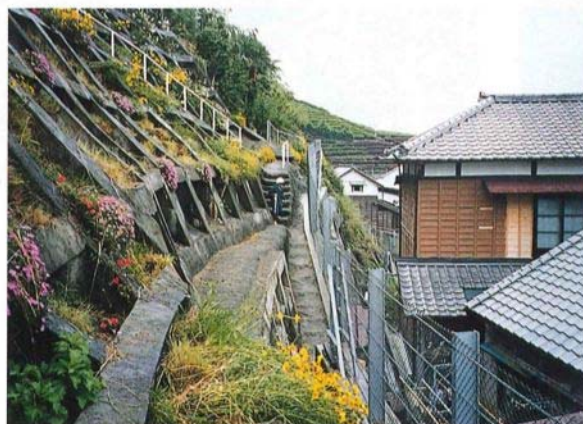
急傾斜地事業30年の歩み

	全国の動き	静岡県の動き
昭和41年		・砂防課設置
42年	・急傾斜地崩壊対策事業を24道県で開始（予算補助） ・西日本集中豪雨災害、死者180名 ・第1回「急傾斜地崩壊危険箇所調査」	
43年		・南伊豆町「妻良」、富士川町「旭町」、御前崎町「井戸沢」にて急傾斜地崩壊対策事業実施（予算補助）
44年	・「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」制定	・県単独急傾斜地崩壊対策事業開始
45年	・建設省土木研究所に急傾斜地崩壊研究室設置	
47年	・がけ地近接住宅移転事業の発足（建設省住宅局）	
48年	・「がけ崩れ防災週間」の創設	
49年	・建設省砂防部に傾斜地保全課設置	・伊豆半島沖地震発生（5月9日） ・七夕豪雨災害発生（7月7～8日） ・丸山町がけ崩れ災害訴訟提訴
50年		・傾斜地保全係設置
52年		・県費補助事業（急傾斜地崩壊防止工事）開始
53年		・伊豆大島近海地震発生（1月14日） ・県単独自然災害防止事業開始
57年	・長崎水害発生、死者299名	・台風10・18号による災害（7月31日、9月10日）
58年	・急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画策定 ・災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業の開始 ・「土砂災害防止月間」の創設	
59年	・受益者負担金問題研究会の発足	
60年		・本県初の災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業を下田市「白浜板戸」他6箇所を実施 ・県費補助事業（指定促進）開始
63年	・第2次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画策定	・県単独・治水特別対策事業の開始
平成元年	・災害関連地域防災がけ崩れ対策事業の実施	
平成3年		・伊豆南部で局所的豪雨災害発生（9月10日）
平成5年	・第3次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画策定 ・鹿児島災害発生、死者121名	
平成6年		・県単独・津波対策急傾斜地事業の開始
平成7年	・阪神・淡路大震災	・県単独・緊急輸送路関連急傾斜地事業の開始
平成9年		・県単独事業予算の縮小始まる
平成10年	・第4次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画策定	・7月末豪雨災害、9月末豪雨災害の発生 ・国庫補助急傾斜事業（災害関連緊急事業を含む）年間予算が全国で2位となる
平成11年	・6月末豪雨災害により土砂災害危険箇所の増加抑制対策の必要性が強調される	・「砂防室」に名称変更 ・砂防室に総合土砂災害対策スタッフ創設

◆急傾斜地崩壊対策事業費の推移



(単位：百万円)



烧津市「奥掛沢」
法枠に住民が花を植えてくれました。



松崎町「石部浜田」
災害弱者関連施設を守る急傾斜事業（三浦幼稚園）

特集

土砂災害防止月間 6月1日～30日 かけ崩れ防災週間 6月1日～7日

みんなで防ごう土砂災害

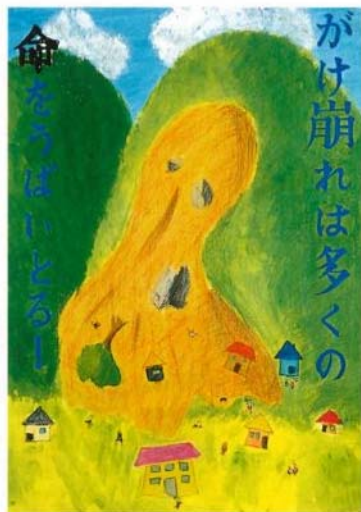
毎年、梅雨期に全国各地で発生している土石流、地すべり、かけ崩れ等の土砂災害から人命・財産を守るため建設省と静岡県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害に対するご理解、ご協力を得るよう様々な行事を実施しました。

「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」の 優秀作品の表彰

土砂災害とその防止について理解を深めてもらおうと、昨年度、県内の小中学生を対象に絵画・ポスター・作文の作品募集を実施しました。各部門で多数の応募をいただき、その中から、岩崎吏佐さんの絵画、広瀬文香さんのポスターが建設省の砂防部長賞を受賞しました。また、水野理哉さんのポスターをはじめ、4人の方々の作品が、それぞれ県知事賞、県土木部長賞及び全国治水砂防協会静岡県支部長賞を受賞し、平成11年6月20日(日)、青葉イベント広場で表彰式が行われました。



建設省河川局砂防部長賞 〈絵画〉
岩崎 吏佐さん
(静岡市立梅ヶ島中学校2年)



建設省河川局砂防部長賞 〈ポスター〉
広瀬 文香さん
(浜松市立丸塚中学校1年)



静岡県知事賞 〈ポスター〉
水野 理哉さん
(静岡市立中島中学校1年)

注：学校・学年は応募時のものです。



静岡県土木部長賞 〈絵画〉
小宮山智士さん
(小山町立足柄小学校5年)



全国治水砂防協会静岡県支部長賞 〈ポスター〉
今井 俊太さん
(浅羽町立浅羽北小学校6年)

作文 中学校の部 全国治水砂防協会静岡県支部長賞

「自然の怖さ」

静岡市立梅ヶ島中学校2年 岩崎 万祐子

「ガッシャーン!!ゴロゴロ、カシャンカシャン!!」
ものすごい騒音が理科室に響きわたったのは五時間目の授業の時でした。その音は山が崩れたものでした。

「どうしよう。」その山の姿を見て思いました。「どうしよう。」長い時間見ているのに不安が消えません。

私は「大代」という小さな村に住んでいます。この村には、学校まで行くのに一本の道しかありません。山から崩れ落ちた土砂や木などはガードレールを突き破り、たった一本しかない道を塞いでしまったのです。崩れたのは初夏のこと、この時季はお茶の季節で村の人達は大代にあるお茶を摘んでいたのに、一人も事故に巻きこまれた人はいませんでした。この日私たちは、裏山の別のルートで大代まで、いつもの五倍の時間をかけて帰り、「次の日は休みかな?」なんて思っていました。私達は山を下って学校へ行きました。どんな日でも学校へ行きます。こんな生活が三日もつづきました。

実は本格的に土砂が落ちる前にも何回か落ちたことがありました。私も落ちた所を大きな荷物を持ってかけぬけたこともあります。その時は村の人達が土砂をさらってくれました。でも一、二回じゃなく、何度も落ちていてのに本

格的な対策はとられなかったようでした。崩れたのが平日で本当に良かったと思います。もし人出の多い日曜日だったら…と思うと、ぞっとします。犠牲になるのがもし自分だったら、知り合いや家族だったら、怖くなります。本当は、きっとこの言葉は、ケガ人が出なかったから言える事で、一人でもケガをしていたら言えないような言葉だと思います。

今年も、テレビや新聞からたくさんの土砂災害のニュースを知ることができました。大雨が降って家が埋まってしまった事や、山が崩れて道が塞がってしまったことなど各地でたくさんの災害があることを知ることができました。私の所ではケガ人が出なかったから良かったけど、きっと土砂災害で亡くなった方は多いんだろうなと思います。

今、私達の一本道は、工事をしています。工事をしている間、朝、昼、夜に三回しか通ることができません。落ちてから三ヶ月以上たっているのに、工事は中々進みません。コンクリートで崩れた所をかためれば、もう落ちることもないのですが、コンクリートでかためてしまうということは、自然を破壊していることのように思えて、これからどうすればいいのかなと思います。

私達にとっては、この一本道はとても大切です。早く良くなってほしいし、崩れた日のことを忘れずに、これから身近な土砂災害のことを真剣に考えていきたいと思っています。

受賞者の声

岩崎 吏佐さん

私は、自分の身近な所で起こった事をそのまま表現しようと思っていました。その作品が入賞できて、すごく嬉しかったです。

これからも身近な自然をみつめて自然と共に生きていきたいです。ありがとうございました。

土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文の募集

- ①対象 小・中学生
- ②応募期間 平成11年6月1日から平成11年9月30日まで
- ③応募先 静岡県土木部河川砂防総室砂防室 電話：054-221-3042

土砂災害防止写真コンテスト (第12回)

- ①応募期間 平成12年3月31日まで
- ②応募先 社全国治水砂防協会 電話：03-3261-8386

みなさまの応募をお待ちしております!

特集

急傾斜地パトロールの実施

急傾斜地崩壊危険区域として指定された区域は、県下に855箇所あります。県では6月1日から23日までの間に土木事務所職員、市町村職員、警察・消防署員など延べ750人余りを動員して、崩壊防止施設の異常や斜面の崩壊・亀裂の有無などの防災点検を実施しました。

この結果、県内数カ所で施設の損傷や小規模の崩壊が確認されたため、早急に改善措置をとることとしました。

急傾斜地パトロールから

藤枝土木事務所 企画検査課 漆畑 諭佳



地パトロールが実施されました。

擁壁に沿って点検をしていくと、小学生の頃、学校帰りに近道して他家の裏を通り怒られたことを思い出しました。パトロールをするには同様に人家裏をずっと歩いていかねばならず、本当にこの事業は住民に密接した、人命を守るためのものなのだと改めて思いました。

住んでいる方は、自分の家の裏という意識があるためか、水路部等を物干しや倉庫がわりに使っていたりと幾つかの占用がみられました。すぐに動かせるものはまだしも、せっかく造ってあるポケット部に材木等を置いてあるようなものについては、危険であるということを知ってもらう必要があり、今回撤去のお願いをしました。このパトロールは、そういう住んでいる方々へのアピールと防災工事終了後の点検に重点がおかれていました。

4日間のパトロールで、緊急を要する異常も特に発見されず、住民の方への周知も出来たと思います。

蒸し暑い中、参加された皆様お疲れさまでした。

6月は土砂災害防止月間です。

当事務所でも6月7、8、10、11日の4日間、市町と協力し管内の急傾斜

急傾斜地パトロールに参加して

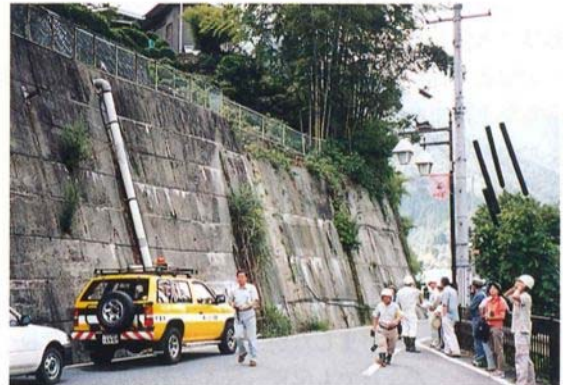
砂防協会事務員 河村 千江美

土砂災害防止月間（6月1日～30日）の8日、天竜土木事務所管内（1市3町1村）の水窪町で実施された急傾斜地パトロールに、砂防協会事務員として参加しました。

パトロールは、県、土木事務所、町職員等13名で実施し、急傾斜地指定区域について、がけ崩れや落石の危険がないか等、町職員の先導により調査しました。

今回、急傾斜地崩壊防止工事が施工された箇所を、映像や写真からではなく直に見ることができ、非常に勉強になり、収穫の大きなパトロールとなりました。

また、土砂災害の早期発見、未然防止に努めることで地域住民の暮らしを守る「砂防」の重要性を改めて感じました。



砂防フェスティバル'99 しずおかの開催

土砂災害の防止と静岡の砂防事業をPRするため、建設省静岡河川工事事務所、沼津工事事務所、富士砂防工事事務所と静岡県との共催により、「砂防フェスティバル99しずおか」が、6月20日(日)に静岡市の青葉緑地で開催されました。

会場では、砂防事業のパネル展示、ボーリングマシン、ボーリングコアの展示、クイズラリーのほかSBSラジオの公開生放送が行われ、多数の市民がイベントを楽しみました。

また、今年度は「土砂災害防止に関する絵画、ポスター、作文」の優秀作品の表彰も行われました。



特集

函南町畑自主防災会が 土砂災害防止功労者として建設大臣表彰



表彰される畑自主防災会渡辺会長

に、自主的にパトロールを実施し、小谷之沢で発生した土石流をいち早く察知して付近住民を避難させ、人的被害を未然に防止した功績によるものです。

「平成11年度土砂災害防止推進の集い（全国大会）」が6月3日、一般市民や女性団体、各行政機関の防災担当者、砂防ボランティア、砂防工事従事者など約1300人が参加し、富山市の富山県民会館ホールで開催されました。

大会では、土砂災害防止に顕著な功績があった個人5人と2団体に土砂災害防止功労者として建設大臣表彰も行われ、本県の函南町畑自主防災会が表彰されました。

表彰は、
当自主防災会が、平成
10年8月30日



小谷之沢の土石流による被災状況

砂防ボランティア協会の活動



静岡県砂防ボランティア協会会長
八木 忠男

平成7年1月に起きた阪神大震災を契機に、多数の土砂災害の被害を防止するため、被害防止対策の知識及び啓蒙運動を主とする声が叫ばれ、砂防ボランティア協会が、各県に設立されました。多くの土砂災害の発生が予測される本県も、皆様関係各位の同意により、平成8年12月に協会が発足致しました。全国で12番目の設立でした。

また、各県相互間のボランティアの連絡、情報交換等の活動を円滑に行うために、平成9年6月大阪で開催された土砂災害防止月間推進全国大会において、砂防ボランティア全国連絡協議会が発足しました。現在では、各都道府県を中心とする60団体、2884名の大規模な組織となっております。各都道府県の協会では、毎年危険箇所点検、土砂災害防止の広報並びに現地研修会等の活動を行っております。又全国のボランティア会員が一同に会し、その体験を発表し、講演等を通じて技術の研鑽に努めることを目的として、全国の集いが行われております。

本年は去る6月2日富山市で行われ、私も出席させていただきました。当日全国連絡協議会会長であります前建設省河川局砂防部長田畑氏の挨拶に引き続き、講演や、奈良・山口両県の協会活動の表彰並びに斜面判定士認定証授与等が行われました。これに併せて土砂災害防止推進の集い（全国大会）が開催され、本県では、平成10年8月の台風の際、事前に危険箇所の地域住民の方々を避難させ、後に発生した土石流から尊い人命を救った田方郡函南町畑自主防災会（代表畑地区区長渡辺正徳氏）が表彰されました。

こんにちは本県もソフト、ハード両面にわたり、その対策が急務となっております。今後共被害軽減及び防止のため、地域住民の皆様方の協力を戴いて、より一層砂防ボランティア協会の活動が、益々盛んになりますことを願っております。

全国治水砂防協会通常総会 急傾斜地法施行30周年記念講演会の開催



(社)全国治水砂防協会通常総会

全国治水砂防協会の平成11年度通常総会と急傾斜地法施行30周年記念講演会が、5月12日、東京都千代田区の砂防会館別館

(シェンパッハ・サポー)において開催されました。

当日は全国各地から多数の会員が出席し、当支部からも、ご多忙中にもかかわらず、多くの会員の皆様のご出席をいただき、盛会のうちに終了しました。

総会では、平成11年度の事業計画などの提出された全議案が原案通り可決されました。

午後には、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法

律」が昭和44年に施行されてから30周年を迎えたことを記念して、急傾斜地法施行30周年記念講演会が開催されました。

講演に先立ち、池谷浩建設省砂防部長、田中元元衆議院議長、坂野重信参議院議員、青山俊樹建設省河川局長の挨拶がありました。このあと、『これからの日本』をテーマに評論家の竹村健一氏による特別講演、国立国会図書館の安田武臣専門調査員とエッセイストの多田とし子さんによる講演が行われました。



竹村健一氏の特別講演

静岡県支部通常総会の開催



全国治水砂防協会静岡県支部の平成11年度通常総会が、5月26日、静岡グランドホテル中島屋において開催されました。

総会は副支部長の豊田舜次袋井市長の挨拶にはじまり、建設省大臣官房付の龜江幸二氏、坂本由紀子静岡県副知事、

鈴木尚静岡県議会副議長、大久保敏全国治水砂防協会常務理事の祝辞をいただきました。

この後、議案の審議が行われ、平成10年度の事業・決算報告、平成11年度の事業計画案・収支予算案等が、それぞれ満場一致で承認・可決されました。

また総会の後、龜江氏、建設省富士砂防工事事務所の花岡正明所長より講演をいただき、土砂災害の状況や建設省の新しい砂防事業の概要、富士山直轄砂防30周年記念事業計画などが紹介されました。

当日お忙しい中、御出席いただいた御来賓の皆様、会員の皆様に心から御礼申し上げます。

坂本川土石流から1年経過

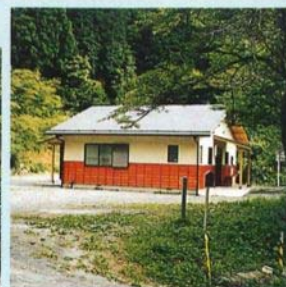
静岡市口坂本の坂本川は、昨年7月28日の土石流により土石流センサーが作動し、付近の住民や温泉客が避難するなど多くの皆さんに注目されてきました。

今年は、6月末に豪雨がありましたが、災害関連緊急砂防工事で実施している既設砂防ダムの除石工事の順調な進捗により下流への土砂の流出を防止しました。

また、静岡市が建設していた住民避難所も5月末に完成しました。



除石工事の完了状況(平成11年6月)



平成11年5月29日完成した住民避難所

災害弱者関連施設への 土砂災害危険箇所の周知

土砂災害危険区域図の配布

平成10年8月末の豪雨により福島県西郷村の社会福祉施設「太陽の国」で死者5名を出す痛ましい土砂災害が発生しました。このように、緊急の避難が困難な災害弱者が被災したことから、平成10年9月に全国一斉に災害弱者関連施設の緊急点検を実施し、11年1月に文部省、厚生省、林野庁、建設省、自治省の5省庁共同の「災害弱者関連施設に係る総合的な土砂災害対策の実施について」が通達され、その対策の一層の強化が図られています。

① その対策

- 1 土砂災害防止事業の推進
- 2 緊急点検調査結果の周知等
- 3 災害弱者関連施設における防災体制の確立
- 4 土砂災害防止に配慮した弱者関連施設の整備

② 土砂災害危険箇所等の災害弱者施設数

区 分	災害弱者施設数	
	静岡県	全 国
①土砂災害危険箇所等(砂防室所管)に係る施設	406	17,032
②山地災害危険区域等(治山室所管)に係る施設	194	5,484
①と②の重複施設数	105	3,441
合 計(重複なし)	495	19,075

③ 土砂災害危険箇所の周知（災害弱者関連施設への土砂災害危険区域図の配布）

県では梅雨、台風の季節に備え、6月の土砂災害防止月間に併せ、市町村と協力して、土砂災害危険区域図等を災害弱者関連施設に配布して、危険箇所を周知し、警戒避難体制の整備に役立てています。



土砂災害危険区域図作成例と配布資料



④ 市町村等への説明会



昨年9月に実施した災害弱者関連施設に係る土砂災害緊急点検調査結果の説明会を5月17日と18日に沼津市と袋井市で開催しました。

説明会は、建設省、県、市町村の担当職員約140人が出席して行われ、県の砂防室と治山室職員が、5省庁通達の趣旨、災害弱者施設に係る土砂災害危険箇所点検調査結果及び災害弱者関連施設に係る土砂災害危険箇所・危険区域図の配布方法等について説明しました。

また、施設の避難体制を土砂災害対策として見直すよう依頼しました。

がまちの砂防

袋井市建設経済部土木課 維持係長 西尾一馬

袋井市は静岡県西部に位置し、江戸時代に江戸と京都を結ぶ東海道53次の27番目の「どまん中」の宿場町として、人々の往来や文化・経済の交流地点として栄え、今でも東海道の面影を残しております。

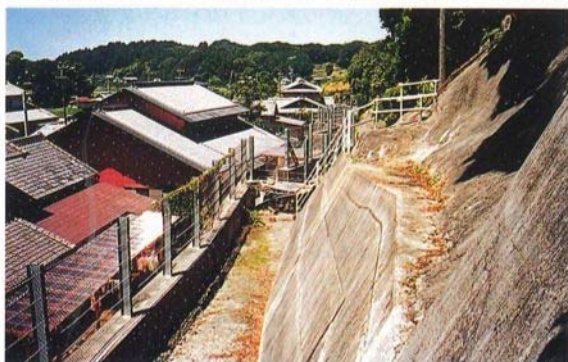
また、健康で快適な質の高い生活を志向する「日本一健康文化都市」を宣言し、「まちの健康、からだの健康、こころの健康」を目指して、さまざまな施策を展開しております。

さて、本市は1974年の七夕豪雨で2級河川太田川の堤防決壊により、人命にかかわる被害こそなかったものの、家屋の流失をはじめとする大きな被害を受けております。その太田川水系において、7河川が土石流危険渓流としてなっております。

本市は地形的に丘陵地帯が多く、この周辺には32箇所の急傾斜地崩壊危険箇所があり、そのうち7箇所、面積82,101㎡が急傾斜地崩壊危険区域として指定を受け、昭和62年度より崩壊等の災害防止を目的に事業を実施し、既に5箇所の対策事業が完了しており、現在1箇所を実施し事業の推進を図っているところであります。



小笠沢川



馬ヶ谷 急傾斜地

一方、災害弱者関連施設に係わる土砂災害危険箇所につきましても、老人福祉施設の2施設がそれぞれ土砂災害注意箇所及び山腹崩壊危険地区にありますので、関係機関及び関係部局と十分な連絡・調整を図るとともに近隣居住者等の協力も得て早めの避難誘導が行えるよう、地域と一体となった取り組みについて一層の推進を図って参りたいと考えております。

今後も、住民が安全で安心して暮らせるために、又、豊かで潤いのあるまちづくりのために、地域住民とともに土砂災害の防止に努めて参りますので、関係各位のなご一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

富士砂防工事事務所からのお・知・ら・せ

建設省富士砂防工事事務所は6月16日、「土砂災害防止月間」行事の一環としてエッセイストで国際ラリーライダーの山村レイコさん（現在富士宮市の朝霧高原に在住）を一日事務所に迎えるとともに、事務所1階に富士山と砂防に関する情報発信と交流の場として「SABOコミュニティホールあまつばめ」を開館しました。

一日所長の山村さんは、職員への訓辞や文書決裁を行ったあと、午後は現地視察と月間の重点である災害弱者関連施設への危険箇所情報の周知のため、特別養護老人ホーム「しらいと」を訪問し花岡事務所長とともに土砂災害対策の説明を行いました。

「あまつばめ」の開館式は、一日所長の山村さん、展示品である青山士氏（元内務省技監であり、パナマ運河開削工事・荒川放水路・大津分水自在堰などを手がけた河川技術者）愛用の腰鉈の寄贈者・高山勉さん（元静岡県職員で、直轄前の大沢崩れ現地調査時に青山氏と深く関わりを持たれました）、花岡事務所長によりテープカットを行い、館内（広さ47平方メートル）を報道関係者等に公開しました。直轄事業着手から30周年にあたり開設された「あまつばめ」を情報発信の拠点として、今後さらに内容の充実を図っていく予定です。



高山勉さん、山村一日所長、花岡事務所長による「あまつばめ」開館式でのテープカット



- 静岡県支部 砂防事業促進要望（建設省・本県選出国会議員）
- 県民の日 口坂本地区地すべり対策事業見学会
[8/20 口坂本]
- 市町村長等砂防事業県外視察 [8/25~27 於 高知県]

編・集・後・記

今年度も、集中豪雨等により、全国各地で土砂災害が多数発生し、貴重な人命や財産が失われています。災害により被害に遭われた方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

今回、会員の方々、関係各位の皆様方に砂防事業に関する内容をより理解していただくために、建設省富士砂防工事事務所、袋井市、砂防ボランティア協会、藤枝土木事務所から寄稿していただきました。

今後も、よりよい誌面づくりに取り組んでいきますので、皆様からのご意見ご協力をお願いします。

表紙写真：川奈小浦台（伊東市）急傾斜地崩壊防止工事

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております！皆さんの御協力をお願い申し上げます。

第127号 発行日：平成11年8月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡市追手町9番6号 静岡県土木部砂防室内
TEL (054) 221-3042 FAX (054) 221-3564



古紙配合率80%再生紙を使用しています